

歯石の取れ具合を探針 # 9 で点検させた。なお、実験群にはサンドペーパー識別テストを行った。

- 5) 評価方法：顎模型より歯肉を外し、歯石の残存状態を5段階に分け、それぞれ5点から1点のスコア付けを行い評価した。
- 6) 歯石の残存状態の結果から、学業成績とYG性格検査の相関を調べた。

以上の結果、識別能テストを行った群は、行わなかった群より歯石除去効果において学業成績、性格との間により高い相関性が認められた。したがって、サンドペーパー識別訓練は手指感覚訓練法として、実習教育カリキュラムに導入することによって、より確実なS & Rの技術の習得が期待される。

歯科技工技術向上のための 手指訓練法の開発

丸山 満 (歯科技工士学科)

1. 補助事業の取組状況

指先の器用さは歯科技工士にとって生命である。指先の技術は感覚、特に触覚、視覚に深く関係する。この技術を向上するためには、繊細な感覚が必要である。しかし、従来の技術教育は主に技工物の反復製作によって行われており、基本となる感覚のトレーニングは殆どなされていない。そこで、本研究では、歯科技工技術の向上のために独自の感覚訓練方法を開発し、実習教育に寄与することを目的として企画した。

昨年度までは手腕作業検査1, 2および指先器用検査について、器用さのベースラインの特定し報告した。

今年度は、さらに性格 (YG性格検査) および器用さ、感覚検査と学業成績との相関について検討した。

〈実験項目〉

- ・ Y G 性格検査
- ・ 指先の識別能検査
- ・ 器用さ検査

2. 補助事業の成果

学業成績 (実技) の分解検査には有意差が認められた。Y G 性格検査は指先感覚の識別能、組み合わせ検査、手腕検査1に有意差が認められた。しかし、学業成績 (学科) ではY G 性格検査および、指先感覚の識別能、各種器用さ検査に有意な差はなかった。また、学業成績 (学科) と学業成績 (実習) は各種器用さ検査法との関係を検討した結果、分解検査、組み合わせ検査、手腕検査2に相関が認められた。その検査内容は比較的難易度が高く、複雑な手指の動きや指頭の感覚が求められる歯科技工技術の「感覚のトレーニング」に適していると考えられる内容であった。学業成績 (実習) と性格特性において各種器用さ検査法と感覚検査に差が認められたことは非常に興味のある結果であった。

学業成績は、各種の器用さ検査法の分解検査、組み合わせ検査、手腕検査2を「感覚のトレーニング」とする際の指標になると推察できる。また、性格特性の違いで粗さの識別能に差があったことから、性格特性別のトレーニングが有効であることが示唆された。学業成績と性格特性を明らかにすることは、効果的な「感覚のトレーニング」に繋がると考えられた。